

平成29年 第5回伊那地域協議会会議録

開催日	平成29年10月17日(火)								
開催時間	開 会	午後6時30分			閉 会	午後8時00分			
開催場所	伊那市役所 1階 多目的ホール								
委員の出欠  出席28名 欠席11名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	出	31	岩本 庄平	欠
	2	守屋 武夫	出	17	西澤 茂成	欠	32	高橋 陽子	欠
	3	伊藤 仁	出	18	福澤 千絵	出	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	欠	19	若林 一雄	出	34	鈴木 優子	欠
	5	白鳥 始	出	20	池上 直樹	欠	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	出	21	宮下 平治	出	36	武田 登	出
	7	中村 初治	出	22	畑 英城	欠	37	平賀 裕子	出
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	出	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	出	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	田中 利幸	出			
	12	酒井 秋雄	出	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	中村 一重	出			
	14	米窪 砂男	出	29	永井 治彦	欠			
15	平澤 徹	出	30	清水 功	欠				
署名委員	板倉 倫顕			守屋 武夫					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
議 事	(1) 小グループでの検討について (2) その他								
配布資料	資料 No.1 グループ討議まとめ 資料 No.2 伊那地域協議会委員構成検討資料								

## 1 開会

有馬副会長により、開会する。

(欠席の報告)

## 2 あいさつ (副会長より)

会長が所用で遅れているので、私の方で会を進めていく。よろしくお願ひしたい。

## 3 会議録署名人の指定について

(会長)

会議録署名人に1番 板倉 倫頭委員、2番 守屋 武夫委員を指名する。

## 4 協議事項

### (1) 小グループでの検討について

(事務局)

本日は小グループでの検討結果をまとめていただきたい。本日まとめることができない場合には、11月7日(火)までに配付したシートに検討結果をまとめて提出いただきたい。また、前回の協議会の中で、協働のまちづくり交付金の残額を伊那地域協議会の事業で活用することになった。グループ検討の中で協働のまちづくり交付金を活用した事業についても検討いただきたい。

#### <グループによる検討>

#### <グループによる検討結果発表>

##### (グループ1) 「中心市街地の活性化について」

最終的にできることとして検討していることは、中心市街地を歩いてもらうために、色々な切り口により歩いてもらうためのマップ作りが、中心市街地活性化において必要なことではないかということである。

協働のまちづくり交付金についてはマップ作りの詳細を詰めたものと、設置箇所の問題はあるが、伊那市駅前に降り立った時に情報がないので、掲示板的なものを設置して、マップとQRコード等を利用しリンクさせるようにして、伊那市駅に降り立った人への情報提供を充実させていきたいと考えている。

##### (グループ2) 「地域のつながりについて」

地域のつながりについて、特に第一線を退いた方たちにどうやって活躍してもらうかについて話し合った。最終的には、今までやってきている様々な活動を、その地域の方たちにもう少し提案し、その提案が途中で停滞しないように相談する人を養成することが一番大切であるということになった。活動できるリーダーの養成が一番大切ではないか。

また、今までも活動している社会福祉協議会や行政・地区・学校等の連携を活発化していくことが大事ではないか。

(グループ3) 「伊那地域の公共施設の在り方について」

道の駅は物販や食事提供等が主流となっているが、地域の交流の場を重点とし、付属として地域の農産物の販売や食事提供をしたらどうかと思う。交付金については、10月2日に平谷村の道の駅と飯島町の田切の里を視察したので、一部その費用に充てられたらと思っている。

(グループ4) 「少子化、過疎化への対策について」

少子化・過疎化については、3つに分けて考えている。一つはマップを作ってアピールする。そのマップも通常の観光マップではなく定住した場合に、どのような生活になるのか、住まい・通勤・買い物等、シーズンごとにどのように変わっていくのかといった情報を掲載したマップを作成していきたい。

また、小規模な地域で様々なものが統合されて不便にならないように、小学校のころから地域に根差した生活をしていけるように、小学校・保育園を小さいからという数の倫理で廃止するのではなく、運営していくことを考えてもらいたい。

定住については、住宅地の確保が必要となってくる。当然、働く場所の確保も必要である。従って、土地を明確に区分けして開発できるように進めてもらいたい。

マップ作りについては、モデルとなるようなマップを作り、それを各地域に広めていきたいと考えている。

(2) その他

(事務局)

現在の委員の任期だが、平成30年3月までとなっている。次の第7期の委員を推薦していただくにあたり、委員構成について意見があれば、次回の地域協議会でお願いしたい。

(会長)

次期委員会構成について、事務局から説明があったが、次回意見があればいただきたい。

(委員)

我々は今ボランティアで委員を受けているが、委員でも出席できる方と出席できない方と非常に差がある。交通費は支給いただいているが、次の方をお願いするうえでもできれば手当の支給を検討いただきたい。

(事務局)

地域自治区制度が始まった当時は委員報酬をお支払いしてきた。地域自治区制度を審議する国会の審議の際に、地域協議会の委員については原則無報酬という附帯決議がされたわけだが、伊那市においては報酬をお支払いしてきた。合併から10年経ち、議会での説明や地域自治区制度の在り方について検討する審議会等をへて、国会の附帯決議を尊重す

る形で、今期の委員の皆さんからは、無報酬というように市の条例も改正している。再度、報酬を支払うということになると条例改正が必要であり、伊那地域だけの問題ではなくなってくる。地域自治区制度の在り方を検証する中で必要があれば見直しをしていくということでご理解いただきたい。

(委員)

委員の任期が終了するが、今後の我々の任務としては提言を出せば終了ということだよいか。地域の組織を立ち上げるという話も出ているが、誰がどう音頭をとって行くのかということになると難しいと思う。今後の我々の係わり方を含めて、提案を出したことで実現が可能なのか、我々がどう動いていけばよいか指導いただきたい。

(事務局)

委員については選出母体の中での役割もあるので、変更することもあると思うし、引き続き行っていただける方はそれに越したことはない。提言に対して、これからどうやって動いていくか、例えば組織化が必要なのかというような話になると思うが、具体的な内容を示した提言にしていけば今後動きやすいのではないかと。

(会長)

課題によっても違うかもしれない。継続性を持っている課題と持っていない課題があると思う。

(委員)

提言をするわけなので、実現させるために我々がどう動くかが重要である。区長にお願いしてもなかなか難しいので、できれば地域の中で自分達みずから積み上げるような組織を作って、組織の課題として今の課題を地域活性化の手段の一つとして取り組めればよいと思う。そういった内容を反映した提言書としたい。

(会長)

提言の中に具体的な内容を含めていただければと思う。次期地域協議会の委員の選出区分について意見はないか。区に持ち帰らないとわからないこともあると思うので、何かあれば次回の地域協議会でご意見いただきたい。

(事務局)

委員構成について一点だけ補足したい。複数の区から1名選出するという区があるが、第5期の地域協議会で各区から1名選出した方がよいのではないかと意見をいただいたので、各選出区の区長に伺ったところ、そのまま良いという意見であったので、第6期の選出区分は現在のようになっていることをお含みいただきたい。

5 閉会

(会長)

地域協議会の任期終了が近づいてきており、各グループまとめに入ってきている。苦勞しているグループもあるようだが、提言をまとめて提出いただくようご尽力いただきたい。以上を持ちまして、第5回の伊那地域協議会を閉会とする。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成29年10月17日

平成29年度 第5回伊那地域協議会 会議録

会 長 .....

会議録署名人 .....

会議録署名人 .....